

令和5年度静岡県総合防災訓練の結果概要

(危機対策課)

1 概要

8月30日から9月5日の防災週間を中心に、全市町において大規模地震発生を想定した総合的な防災訓練を実施した（期間中、約4,100団体、約58万7千人が参加）。

県の本部運営訓練については、8月29日に災害対策本部機能の強化と広域受援計画等の検証を行うため、防災関係機関の参加を得て県庁ほかで実施した。

メイン会場の訓練は、9月3日に県・市と防災関係機関が連携した救援体制の確認を行うため、静岡県・浜松市・湖西市の共催で開催した。

各地域の訓練では、消防・警察・自衛隊等の防災関係機関と連携した地域への救援体制を確認し、自主防災組織、消防団、事業所等の協働による地域防災力の向上を図った。

2 静岡県総合防災訓練（本部運営訓練）（8月29日（火））

（1）訓練概要

場 所	県庁別館5階危機管理センター、別館9階第1特別会議室等
参加機関	県、市町、自衛隊、海上保安庁、国出先機関、県警察本部、消防本部、ライフライン関係機関等（参加人数／約30団体、約7,000人）
訓練内容	<ul style="list-style-type: none">・本部及び方面本部等の連携強化・災害対策本部による機動的な市町支援・「南海トラフ地震における静岡県広域受援計画」の点検

（2）訓練成果

- ・災害時における本部及び方面本部等の間の各種情報の伝達方法及び手順を再確認し、関係機関が連携した実効性ある災害応急体制の強化を図った。
- ・市町支援機動班及び市町情報収集要員を現地に派遣し、ドローンを活用した被害状況などを災害対策本部に報告するなど、派遣先で収集した被害情報等を共有する手順及びその有効性を確認した。
- ・広域受援計画を踏まえ、人命救助を第一とし、緊急輸送、医療活動、物資調達等の分野において、国からの応援の受入、市町への配分手順を確認した。



災害対策本部（危機管理センター）



本部員会議

3 静岡県・浜松市・湖西市総合防災訓練（9月3日（日））

（1）訓練概要

テーマ	自分を守る 家族を守る 地域を守る ～みんなで取り組もう自助・共助・公助～
場所	浜松市・湖西市の各訓練会場、富士山静岡空港、航空自衛隊浜松基地等 （計41箇所）
参加機関	県、浜松市、湖西市、自衛隊、海上保安庁、国出先機関、県警察本部、消防本部、ライフライン関係機関、医療救護機関、地域の法人・団体、ボランティア組織等（参加人数／約250団体、約28,000人）
重点項目	<ul style="list-style-type: none">・防災関係機関と密接に連携した実動能力の確認・災害拠点病院や救護病院等における医療救護体制の確立・住民主体による避難所の運営・物資の各輸送拠点等から避難所までの円滑な輸送・配送・受入れ・自主防災組織、消防団、事業所等の協働・将来の地域防災力を担う次世代の積極的な参画

（2）訓練成果

- ・自衛隊、他県の消防ヘリコプター等を活用し、津波被害による孤立場所からの要救助者搬送、災害拠点病院から航空輸送拠点への患者搬送を行い、航空機を活用した搬送手順を確認するなど、防災関係機関との連携の重要性を確認した。

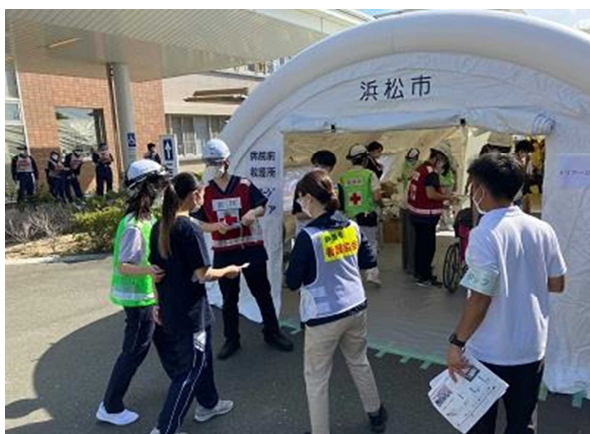


ヘリによる救出訓練（新居中学校）

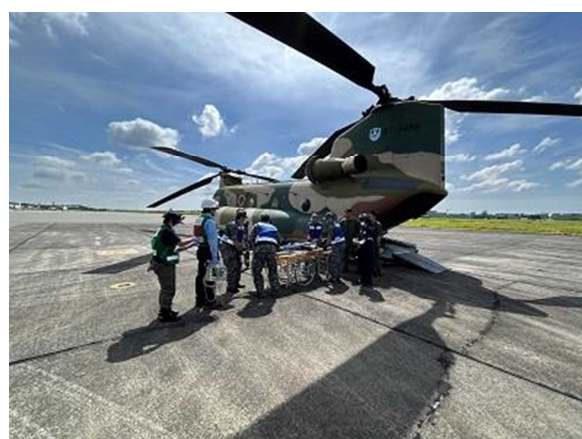


患者搬送訓練（浜松赤十字病院）

- ・両市で救護所を設置したほか、災害拠点病院における負傷者のトリアージや、航空自衛隊浜松基地にSCUを開設し県外への広域医療搬送の手順を確認した。



病院前救護所（浜松赤十字病院・市立湖西病院）



航空搬送拠点開設訓練（浜松基地）

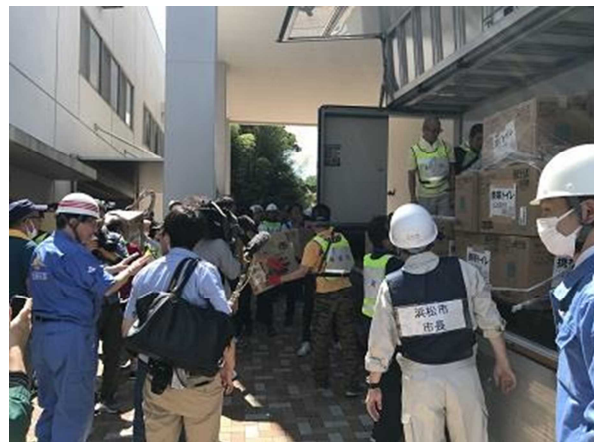
広域医療搬送訓練（浜松基地）

- ・要配慮者や外国人避難者及び避難者のプライバシーに配慮した避難所開設・運営訓練を実施し、住民主体の避難所開設手順や運営方法を確認した。



避難所開設・運営訓練（浜名学園 岡崎中学校）

- ・国からのプッシュ型の物資受入について、広域受援計画に位置づけられる民間の県広域物資輸送代替拠点で受け入れる訓練を初めて実施し、各市の物資拠点や両市の避難所へ届ける体勢を確認した。



物資受入訓練（西濃運輸㈱浜松支店・中部学園）

- ・市の協定に基づき、地元の団体と連携した水上オートバイによる津波漂流者の救出救助訓練を行った。



海上における漂流者救出訓練（浜名港）

- ・「将来の地域防災力を担う次世代の積極的な参画」を図るため、防災イベント会場において、小学生などが防災知識を習得した高校生から、ゲーム形式で家庭で実践できる防災対策を学んだ。



防災イベント会場（浜松市ギャラリーモール「ソラモ」）